

令和7年度		学 校 自 己 評 価 お よ び 学 校 関 係 者 評 価					品川翔英高等学校				
校訓・教育方針		校訓 自主：自主的に未来を切り拓く力 創造：新たな価値を作り出す英知 貢献：未来に貢献する心 教育方針：GRADUATION POLICY ①愉しむ力 ②主体性 ③自律性 ④協働性 ⑤批判的思考力 ⑥想像力 ⑦貢献する これらの3つを基礎に学び続けるLEARNERを育てる。									
教育目標 (カリキュラムポリシー)		「学び続けるLEARNER」を育成するために「自己調整学習」を実践する。基礎基本となるコアカリキュラムに加え、学習者の関心・意欲に応じた多様なカリキュラムが 選択できるような教育課程を編成することで学力を向上させるだけでなく、社会と直接つながることのできるような教育活動を実践し、多種多様な将来へと視野を広げる。									
学 校 自 己 評 価										学校関係者評価	
年 度 の 目 標					年 度 評 価			実施日			
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価基準	評価項目の達成状況	達成度	次年度の課題と対応策	意見及び要望	評価		
●基本的な学力をつける ●進路実績の向上	●総合学力テストや共通テスト対策模試などの結果は安定して推移している。 更なる上積みに向け、重点科目を絞った対策を行う。 ●大学入学共通テスト受験者数を増やす。また、その得点率をアップする。 ●前年比で実績を比較すると、大学進学実績は向上している。	●総合学力テストでの成績アップ ●共通テストの成績アップ ●国公立大学や難関大学などの進学実績向上	●低学年での学習習慣を確立し、基礎固めを徹底する。 ●主要科目で長期休暇に講習を実施し、基礎学力の向上につなげる。 ●模擬試験の結果を分析して理解不足内容を復習する環境を作る。 ●進路指導をしっかりと行い、受験型による個別対策指導を充実する。	●模擬試験の偏差値アップ ●大学合格実績の向上	●ベネッセ模擬試験のGTZランクは前年度水準を維持した。一方で大学合格実績は伸長しており、次年度はGTZの上位移動を数値目標として設定する。 ●今年度の大学合格実績は、国公立6名、早慶上理11名、GMARCH60名、日東駒専57名、成成明学56名、海外大学4名「(のべ合格数)」であり、GMARCH以下の合格実績は大幅に増加した。	A	●国公立大学など合格目標を具体的に設定して、それに沿った進路指導計画を実践する。また、授業の質を高めて基礎基本の徹底に努める。 ●長期休業中の講座設定など方向性を統一して、進学実績の向上に努める。 ●面接や小論文対策を充実させる。	○スタディサプリを利用しながら、生徒個々にあった学習方法を模索して学力向上に取り組まれていた。	A		
●スクールポリシーにかなう生徒の確保 ●入学定員の確保	●令和8年度新入生の入学者数は、中学一貫部の生徒を合わせると昨年度より増加したが、学則定員にはやや満たなかった。高校から入学する生徒を含めて学則定員を確保したい。	●入学定員の確保 ●志願者の増加 ●スクールポリシーにかなう生徒の確保 ●難関進学クラス志望生徒の増加	●学校説明会を実施して学校のPRに努める。 ●HPを充実させて、タイムリーな話題を提供し、説明会に誘導する。 ●進学実績の伸びをアピールして学力上位生徒の誘導に努める。	●受験者数の増加と合格者の学力がアップしている。 ●入学者が学則定員を充足している。	●高校説明会の回数を増やし、校外の説明会にも積極的に参加した結果、説明会参加数は昨年度を上回った。 ●入学者は、学力上位生徒が増加している。	B	●説明会に誘導できるようなHPの作成をする。 ●広報活動をより充実させる。 ●成績上位生徒の確保に向けて方策を検討する。 ●入学生の充足率を100%以上にする。	○学校説明会の機会を増やし、来校者を増やす努力をしていた。 ○入学者数が募集定員をやや下回った。	B		
●学校改革	●教員研修の充実 ●教育の質の向上 ●校則を作り、最低限守ることを徹底する。	●いろいろな研修会に積極的に参加する。また、企画して指導力の向上に努める。 ●生徒の学力向上(模擬試験の成績が伸びている) ●ドレスコードの徹底	●プログラム実施後のシート提出を確認し、研修状況を確認する。 ●模試の結果分析を徹底し、すぐに対策を講じる。 ●ドレスコード違反が確認されたらすぐに注意を促し、改善させる。	●振り返りシートが問題なく提出されているか。 ●15段階GTZが1ランクでも上がっているか。 ●ドレスコードを理解し、制服を正しく着こなしているか。	●学校で計画された研修は全教員が参加し、活動していた。 ●複数の学年で成績上位層が拡大した。全体的な学力の底上げを次年度の重点課題として位置づける。 ●上級学年において身だしなみ基準の再確認を要する場面がみられたため、学年主任を中心に指導基準の統一と個別対応を強化した。	B	●生徒対応・保護者対応の質を高めるため、事例研究型の研修(人権教育、ハラスメント防止、個人情報の適正な取り扱いを含む)を計画的に実施する。 ●真面目に学習に取り組み、基礎学力の定着が図られるように指導計画を立てる。 ●校則を作り、最低限守ることを徹底する。	○教職員の研修・研鑽の時間を確保し、教育の変化に対応する努力が見られた。 ○学校の秩序を保ち、生徒がより良い学校生活を過ごせるような取り組みが見られた。さらにより良い学校づくりに尽力してほしい。	B		